

August 9, 1985

Cable No. 1381, Charge d’Affaires Tanabe to the Foreign Minister, 'Problem of the Release of the American Hostages (Meeting of Special Envoy Nakayama and Foreign Minister Velayati)'

Citation:

"Cable No. 1381, Charge d’Affaires Tanabe to the Foreign Minister, 'Problem of the Release of the American Hostages (Meeting of Special Envoy Nakayama and Foreign Minister Velayati)'" , August 9, 1985, Wilson Center Digital Archive, Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan, File No. 2017-0631. Translated by Stephen Mercado. <https://wilson-center.drivingcreative.com/document/270602>

Summary:

A telegram from Japanese diplomat Ryuichi Tanabe summarizing a conversation between Special Envoy Nakayama and Foreign Minister Velayati about the American hostages in Lebanon.

Original Language:

Japanese

Contents:

Original Scan

Translation - English

注 意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は特殊電配布班(TEL2175)に連絡ありたい。
3. 本電の注管変更は記帳班(TEL2172)に連絡ありたい。

大政事 外外 官
務務 典房
次次 審審
臣官 官審 長長

電 信 号

限定配布

大外 査特 博
使 察担 代
研 審室 表

総 対 文 会 厚 情
括 活 察 人 電 在 儀 警 史

報 審 報 内
文 際 外
長 一 二

領 移 長 参 一 二 旅 査 移

ア 審 地 中 東
長 参 北 東 西
一

北 米 長 審 一 二 保

中 南 長 一 二

欧 審 西 ソ 洋
長 西 東
一

近 ア 長 参 一 二 ア 一 二

経 次 参 経 漁 途 国
長 審 総 経 エ 国 博
一 二 ネ 一

審 海

経 協 長 審 政 国 開 無
参 調 技 有 理

条 長 審 条 協 規

国 参 政 経 人
長 参 軍 社

科 審 科 原

情 調 長 審 情 析 調
審 企 安

総 番 号 R108259

主 管

年 月 09日 00時 40分 イ ラ ン 発
60年 08月 09日 06時 41分 本 省 着

近了局長

外 務 大 臣 殿

田 辺 臨時代理大使

米 国 人 人 質 解 放 問 題 (中 山 特 使 と ヴ ェ ラ ヤ テ イ 外 相 と の 会 談)

第 1381号 極秘 大至急

〔限定配布〕

往電第1373号に関し、

1. 8日午前9時30分から約1時間30分、中山特使はヴェラヤテイ外相とイラン
外務省にて会談したところ、概要次のとおり。

〈わが方：本官ほか、先方：モルシエドザデ第七政務部長が同席〉

中山特使：ナカソネ総理、安倍大臣より貴大臣によろしくとのことであつた。また、
今秋の国連総会で再度貴大臣にお会いできるのをたのしみにしていると述べておられ
た。自分は昨日「ラ」議長に会い、ナカソネ総理の親書をお渡しした（として、総理
親書の写しを「ヴェ」外相に手交）。「ラ」議長とは、レバノンにおける米国人人質
問題につき長時間話し合つたが、イラン側は、この人質問題の解決につき米側は真面
目でないと言い、日本側は、米側は真けんに本問題の解決を望んでいると受けとつて
いる。この両国の理解の違いは、どこから生じるのだろうか。

「ヴェ」外相：貴特使は非常に誠実かつ率直である。自分は、貴特使と「ラ」議長の
会談の内容につき報告を受けているが、貴特使の質問については、「ラ」議長との会

外 務 省

注 意

1. 本電の取扱いには慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は特殊電配布班(TEL2175)に。
3. 本電の主管変更は記帳班(TEL2172)に連絡ありたい。

電 信 写

談において既に答が出されているものと考え。

イランは何世きも前からレバノンとしゅう教的歴史的関係を有しており、レバノンの実情をよく知っている。他方、西側諸国、例えば仏などはレバノンと長年関係を有しているにもかかわらず、未だ十分な認識を有していない。レバノンには多くの独立したきつ抗し合う集団があり、単一的意思決定機構は存在しない。レバノン国内及び国外の如何なる努力も、実現が保障された決定はなし得ない。いわばレバノンは「そこなしぬま」のようなもので、米、英、仏、イタリア、イスラエルはこの地域にかい入して多大の困難を経験した。貴国を含め、各国はレバノンについてより多くのことを学ぶ必要がある。

われわれは、レバノンにおける米人質事件について、詳細は知らない。しかし、米国が先ずTWA機事件の際にシリアに対し行つたコミットメントを実行することにより、レバノン人の米国に対する不信感を払しょくし、もつて米国をとりまくかん境の改善に努めるべきである。

中山特使：「ラ」議長は、最も大切なことはイスラエルが依然としてとらえているシーア派レバノン人を解放することであり、これが第一歩であると言つたが、イスラエルによるシーア派レバノン人の解放が実現すればそれがレバノンにおける米国人質問題の解決につながると考えておられるのか。

「ヴェ」外相：われわれは、果してレバノンに米国人質が存在するのか、また仮に存在するとしても、どこに、如何なる勢力によりとらえられているのか承知していない。われわれが述べているのは、一般的な状況の改善に関することである。

TWA機事件解決のためにイランは影響力を行使したが、米国は誤つた行動をとつた

注 意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は特殊電配布班(TEL2175)に。
極秘
3. 本電の主管変更は記帳班 (TEL2172) に連絡ありたい。

電 信 写

。もし米国が正しく対応していたならば、米国はレバノンにおいてより好ましい状況におかれ、レバノン人は米国を信頼するようになったであろう。

中山特使：クウェイトにおける爆破事件（の犯人の取扱い）が、レバノンにおける人質事件の原因になつていていると考えるか。

「ヴェ」外相：レバノンにおける米国人人質問題とクウェイトの事件は、何らかの関連はあるかも知れないが、それはレバノン人自身に聞くべき問題である。

レバノン人は、彼等が受けたしうちに対し、彼等なりのやり方で対応している。イランとしては、この種の問題については、単に個々の問題を表面的に処理するのではなく、よりほり下げた根本的解決を図るべく対処すべきであると考えている。それ故、米国と良好な関係を有する貴国より米国に対し、レバノンにおける約束を実行するよう伝えて欲しい。また、米国はレバノンにおいてイスラエルが犯している犯罪に手を籍すべきではない。

中山特使：この地域における紛争の歴史が非常に長く、かつ深くさくそうしていることはより理解できる。しかし、アプローチのしかたを逆にして個々のケースを現実的に解決することにより、この地域の情勢全般を改善する契機をつくり、もつて根本的な問題の解決に資することも一つの方法ではないか。

「ヴェ」外相：われわれは、米国が本当にレバノンにおける米国人人質問題の解決を望んでいるのかどうか疑問に思っている。レーガン政権は、この問題を国内の団結のために利用しているのかも知れない。更にレバノンにおける米国人人質問題は、米国が単に主張（CLAIM）しているだけのものであり、そもそもこれが存在するかどうかさえ明確になつていない。レバノンでは多くのグループが個々に活動しており、

注 意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は特殊電配布班(TEL2175)に。
極秘
3. 本電の主管変更は記帳班(TEL2172)に連絡ありたい。

電 信 写

仮にこの問題が存在したとしても、実体のはあくは困難である。いずれにせよこのよ
うな問題は国際的なレベルの討議の対象にはなり得ない。

中山特使：もし、イスラエルがとらえているシーア派レバノン人の解放が部分的にせ
よ実現した場合には、それはそれなりにこの問題に資すると考えるか。

「ヴェ」外相：自分はわからない。ただし、一般的な状況の改善には役立つと思う
。

ところで「ラ」議長はナカネ総理及び安倍大臣との間で行われたフォローアップを
真げんに考えている。しかしながら、在京イラン大使館からの報告によれば、日本側
の対応は極めて遅れているようだ。

日・イラン関係の発展

のためには、このような問題がじん速に処理される必要がある。

中山特使：率直に述べさせていただくならば、この米国人人質問題の解決は日本政府
にとって日・イラン関係を発展させるための非常に強力なテコとなるであろう。

「ヴェ」外相：われわれは日・イラン関係の発展、就中経済分野における協力関係の
^間 拡じゅうを望んでいる。率直に言つて、日・イラン核における経済関係が、レバノン
における米国人人質問題と如何なる関連があるのか理解できていない。いずれにせよ
、日・イラン両国の二国間関係における問題が、全く異なる他の問題に結びつけられ
て取扱われるべきでないと考える。

注 意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は特殊電配布班(TEL2175)に。
に。
3. 本電の主管変更は記帳班 (TEL2172) に連絡ありたい。

電 信 写

中山特使：今や日本は経済大国となり国際社会においてその経済力に見合った政治的役割を果たすことが要請されている。このような状況においては、日・イラン両国間の経済関係とは一見全く関わりのないように見える国際政治面における協力が、現実には日・イラン経済関係に強い影響を及ぼし得るものであるということを理解願いたい。そして、わが国がその期待されている政治的役割を果たし得るよう、貴国の協力が得られればそれがどうして両国の経済関係の増進と無えんであるだろうか。

2. なお、ムサヴィ首相との会談は、日程上の調整がつかなかった。

お見込みにより関係公館に転電願いたい。(了)

Number: R108259

Primary: Middle Eastern and African Affairs Bureau Director-General

Sent: Iran, August 9, 1985, 00:40

Received: MOFA, August 9, 1985, 06:41

To: The Foreign Minister □

From: Tanabe, Charge d'Affaires ad interim

Problem of the Release of the American Hostages (Meeting of Special Envoy Nakayama and Foreign Minister Velayati)

No. 1381 Secret Top Urgent

(Limited Distribution)

Re: Outgoing Telegram No. 1373

1. From 09:30 on the morning of the 8th, for approximately an hour and 30 minutes, Special Envoy Nakayama and Foreign Minister Velayati met at the Iranian Foreign Ministry. A summary of its main points follows below.

(Other officials and I attended on our side; Seventh Political Bureau Director Morshedzadeh attended on the other side.)

Special Envoy Nakayama: Prime Minister Nakasone and Minister Abe told to me, Minister, to convey to you their best regards. They also said that they look forward to being able to see you again at the United Nations General Assembly this autumn. Yesterday, I met Majlis Speaker Rafsanjani and delivered to him a letter from Prime Minister Nakasone (so saying, I handed to Foreign Minister Velayati the letter written by the Prime Minister). I had a long talk with Majlis Speaker Rafsanjani regarding the problem of the American hostages in Lebanon. The Iranian side said that the US side was not serious about resolving this hostage problem. The Japanese side's impression is that the US side earnestly desires a resolution to this problem. From where, would you suppose, arises this difference between the two countries?

Foreign Minister Velayati: Special Envoy, you are both very sincere and direct. I have received a report of the content of your meeting with Majlis Speaker Rafsanjani. As for your question, I think that the answer was already given you in the conversation with him.

Iran has for centuries had religious and historical relations with Lebanon and knows well Lebanon's actual circumstances. On the other hand, even though Western countries - such as France - have for many years had relations with Lebanon, they still do not have sufficient understanding. In Lebanon, there are many independent groups competing with one another. No single decision-making organ exists there. No matter what efforts are made inside or outside of Lebanon, no one can make a decision that would be guaranteed to be carried out. As we say, Lebanon is like a "bottomless swamp," which is why the United States, Britain, France, Italy, and Israel have experienced great difficulties when they have intervened in this region. Every country, including yours, needs to learn more about Lebanon.

We do not know the details concerning the issue of the American hostages in Lebanon. However, the United States should first, by carrying out its commitment made to Syria at the time of the

TWA Incident, work to dispel the distrust of Lebanese regarding the United States and to improve the environment surrounding the United States.

Special Envoy Nakayama: Majlis Speaker Rafsanjani said that releasing the Lebanese Shiites held in Israel was the most important thing and that it would be a first step. Do you think that, if the release of the Lebanese Shiites by Israel were realized, it would lead to the resolution of the problem of the American hostages in Lebanon?

Foreign Minister Velayati: We do not know if there really are American hostages in Lebanon or, even if they do exist, where they are or by which force they have been taken. What we are saying concerns an improvement in the general state of affairs.

We exercised our influence to resolve the TWA Incident, but the United States took mistaken action. If the United States had responded correctly, then it is likely that the United States would have been in a more favorable situation in Lebanon and that the Lebanese would have come to trust the United States.

Special Envoy Nakayama: Do you think that (the handling of the criminals in) that incident of destruction in Kuwait is a source of the hostage incident in Lebanon?

Foreign Minister Velayati: The Kuwait incident may have some relation to the problem of the American hostages in Lebanon, but that is a problem about which you should ask the Lebanese themselves.

The Lebanese are responding in their own way to the treatment they received. Iran thinks that, in regard to this type of problem, one should respond not simply in superficially dealing with each individual problem but in seeking a more fundamental resolution. So, we would like your country, which has good relations with the United States, to tell the United States to carry out their promise in Lebanon. Also, the United States should not become involved in the crimes that Israel commits in Lebanon.

Special Envoy Nakayama: I better understand now the history of conflict in this region, which is very long, as well as deep and intricate. However, taking the opposite approach, is not creating an opportunity for the improvement of the overall state of affairs of this region in realistically resolving individual cases, thereby contributing to the resolution of fundamental problems, also a way to do it?

Foreign Minister Velayati: We doubt whether the United States desires to resolve the problem of the American hostages in Lebanon. The Reagan Administration may be using this problem for domestic unity. Furthermore, the problem of the American hostages in Lebanon is something that the United States is simply claiming. To begin with, it is not clear whether or not this problem exists. In Lebanon, many groups are acting on their own. Even if this problem does exist, grasping the situation would be difficult. In any case, such a problem cannot become a subject of debate at the international level.

Special Envoy Nakayama: Do you think that, in the event that the release of even some of the Lebanese Shiites held in Israel were achieved, it would in its own way help this problem?

Foreign Minister Velayati: I do not know. However, I think that it would be useful in improving the overall state of affairs.

By the way, Majlis Speaker Rafsanjani has been earnestly thinking about the follow-up conducted with Prime Minister Nakasone and Minister Abe. However, according to a

report of the Iranian Embassy in Tokyo, it seems that the Japanese side's response has been extremely late. [TN: portion of paragraph blacked out] For the development of relations between Japan and Iran, this kind of problem must be settled swiftly.

Special Envoy Nakayama: If you permit me to speak frankly, I believe that, for the Government of Japan, the resolution of this problem of the American hostages would be a very powerful lever for the development of relations between Japan and Iran. [TN: rest of paragraph blacked out]

Foreign Minister Velayati: We desire the development of relations between Japan and Iran, particularly the expansion of cooperative relations in the economic field. Frankly speaking, we cannot comprehend how the problem of the American hostages in Lebanon relates to economic relations between Japan and Iran. In any case, we think that the problem of bilateral relations between Japan and Iran should not be linked to other, completely different problems.

Special Envoy Nakayama: Now that Japan has become an economic power, it is being asked to perform in international society a political role befitting its economic strength. In such a situation, cooperation in international politics that appears at first glance completely unrelated to economic relations between Japan and Iran can in reality exert a strong influence on economic relations between Japan and Iran. How, then, if your country were able to cooperate to enable my country to perform that expected political role, would it not be connected with an increase in economic relations between our two countries?

2. In addition, we were unable to schedule a meeting with Prime Minister Mousavi.

I would like you to please relay this to the relevant diplomatic missions. (End)